

何度でも社会とつながることができる 亀山をめざして

だから、一步踏み出せる。参加できる場所があるから。

80代の親と50代の子の親子が社会から孤立する「8050問題」をはじめ、生活困窮やいじめ、リストラなどがきっかけで起こるひきこもりやニートなどは、誰にでも起こりうる社会全体の課題となっています。

ひきこもりとは、仕事や学校に行けず、家族以外の人との交流をほとんどせずに、6カ月以上続けて自宅に居る状態と定義されています。内閣府の調査では、このような状態に加え、家族以外の人との交流はなく、自分の趣味の用事のときだけ外出する状態にあるとされる人は、全国で約146万人と推計されています。

本市は、“ひとりぼっちをつくらないまち”を目指し、亀山市社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー(CSW)と共同して、世代や属性を問わない包括的な相談支援体制づくりに取り組んでいます。

今回は、ひきこもり等の現状を考えながら、本市における社会参加の取り組みを取り上げます。

■15～64歳でひきこもり状態にあるとされる人



※内閣府「子ども・若者の意識と生活に関する調査(令和5年3月公表)」をもとに、「第二期三重県ひきこもり支援推進計画(令和7年3月公表)」から市の数値を推計

問合せ先 地域福祉課福祉総務グループ ☎84-3311
社会福祉法人 亀山市社会福祉協議会 ☎82-7985

ひきこもり等の要因 ひきこもり等の正しい理解を。



地域福祉課福祉総務グループ
相談支援包括化推進員
西 秀人

真面目で繊細な人、感情をあまり出さない人たちは、誰かに「SOS」と言えないまま我慢し続けることで、心が限界に達してしまいます。ひきこもりやニートなどになる原因は、心理的な要因や社会的な要因などさまざまです。ひきこもり等に対する偏見は、私たちの暮らしの中に潜んでおり、その要因を正しく理解することが大切です。

悩みを抱えた人にアドバイスをすることよりも、しっかりと話を聴いて、寄り添う。それが安心感となり、信頼関係を築くことにつながっていきます。

心理的要因

不安・自分への
落胆など

生物学的要因

精神疾患や
生まれながらの
発達の特性など

社会的要因

家庭や
学校・職場など



ひきこもり等の人に、どのように向き合えば良いのだろうか



亀山市地域福祉推進委員会
委員長 長友 薫輝さん

Profile

佛敎大学社会福祉学部准教授。専門分野は社会保障学、地域医療論・地域福祉論など。第二次亀山市地域福祉計画【後期】の推進にあたる。現在、亀山市地域福祉推進委員会委員長。また、三重県ひきこもり支援推進委員会委員長として、第二期三重県ひきこもり支援推進計画の策定・推進にも関わる。



第1回地域福祉推進委員会(令和5年6月30日)



地域福祉シンポジウム(令和6年7月5日)

ひきこもり等は社会課題の一つである

ひきこもり等に至る原因やきっかけは多種多様です。いじめ、不登校、障がい、進学や就職、人間関係の悩み、家庭環境などさまざまな事情が関係しています。背景には、少子高齢化や核家族化の進展、非正規雇用の増加といった日本を取り巻く社会環境の変化のほか、自己責任論や成果主義の広がりの影響など、社会的な要因によって生じていることが考えられます。このように「誰にでも起こりうること」としてとらえるべき社会課題の一つで、決して自己責任で解決する課題ではありません。

私が策定に関わった三重県の第二期三重県ひきこもり支援推進計画(令和7～11年度)では、めざす社会像を「誰もが社会孤立することなく、ありのままの自分が認められ、いつでも小休止でき、多様な生き方を選択し、希望を持って安心して暮らせる社会」としています。

ひきこもり等は、他人事ではなく、我が事の時代にある

私自身、ひきこもり等とは「社会的に孤立し、孤独を感じている状態にある人や、さまざまな生きづらさを抱えている状態の人」と考えます。また、働かなくても働けない状態は一人ひとり異なり、例えば「生活上の困難さを感じている、家族を含む他者との交流が限定的(希薄)、支援を必要としている」といった状況です。そういった状態になった場合、早期の支援につなげることができるよう、いつでも安心して訪れることができる居場所等の社会資源を確保した上で、十分な相談支援体制の整備に向けた関係各位の共同努力が重ねられてきました。

ひきこもり等を人ごとではなく、自分のことのように誰にも起こりうる課題としてとらえ、皆さんの関心と認識が高まることで、誰もが自分らしく生きることができる地域社会へとつながっていくものと考えます。

今、どのような支援が求められているのか

支援の最終的な目標は、社会参加や就労だけでなく、社会から孤立することなく希望を持って安心して暮らせるためのサポートを行うことです。当事者が自らの意思により社会との関わりや就労などを望む場合に、多様な生き方を選択できるよう、安心して利用できる居場所づくりに加え、社会との接点を持つ機会の提供や、就労支援も含めた段階的かつ継続的な社会参加や社会で活躍できる環境づくりが大切です。

県内では、複雑化・複合化した支援ニーズに対応するため、対象者の世代や属性を問わない相談支援、多様な社会参加支援、居場所や交流の場をつくる地域づくり支援を一体的に行う包括的な支援体制の充実が図られています。就労を望む当事者には、就労支援機関はもとより、福祉や医療など、必要な関係機関が連携し、相談から就職までの一貫した支援に加え、就労後の悩みや不安に対しても寄り添いながら、就労の定着支援が必要であると考えています。

亀山市オンライン居場所『Find(ふぁいんど)』を知っていますか？ 次の一步を踏み出すきっかけに。

『Find』は、「対面で話すことに不安がある」、「外出するのは人目が気になる」などの生きづらさを抱えながらも、つながりを求める人を対象とした、インターネット上のコミュニケーションツール「MetaLife(メタライフ)」を活用したオンライン居場所です。仮想空間(メタバース)で自分の分身となるアバターを操作するので、ゆるやかな交流ができます。

この場所で、「自分に必要な何かに気づき、何かを知り・発見する」ことができるようにという想いを込めて、本年4月から運用しています。

- 対象者** 市内在住の人(社会とのつながりを求めている人やその家族)
- 開催日** 毎月第4金曜日 午後4時～5時(祝日の場合は、前日の木曜日)
※申込フォームから事前に予約してください。

「Find」に
参加する!



亀山市参加支援(就労体験等)事業を進めています。

市では、既存の社会参加に向けた支援制度での就労が難しい人を対象に、民間企業などの協力の下、働くことを体験していただく取り組みを行っています。

働くことを通した「しあわせを求めて」 — 「えん」が取り組む就労支援 —

私たちの活動の原点

「働きたくても働けない人に就労体験を」

— 小林さん 「えん」では、就労に困っている人を支援しようと、独自で訓練事業を始めました。ひきこもりやニートになる要因は、必ずしも障がいがある理由ではありません。過去のトラウマや経験不足などにより、働くために必要な力がないまま現在に至っただけで、誰にでも起こりうることなんです。本人は原因が分からなくて「どうしてうまくいかないの?」と悩み苦しんでいます。だからこそ、訓練事業が役立てばと活動しています。

— 杉本さん 訓練事業で親と面談に訪れた男性。来てしばらくは、しゃべりかけても全く話してくれず、意思表示は首を振るだけでした。一緒に作業する上では、声のリアクションが欲しいと伝えていたら、徐々に「はい」と返してくれるようになったんです。そのような中、サッカーが好きと聞き、「一緒にフットサルをやらないか?」と誘ったら、フットサルチームの練習に参加することになりました。作業以外の余暇活動もできるようになり、一緒に体を動かしたり、ご飯を食べたりしているうちに少しずつ会話が増え、慣れた相手には自分から話しかけることができるようになりました。訓練を通して、いろいろな人と会話ができるようになったのは、大きな変化だと思います。



NPO法人えん

代表理事 小林 弘樹さん(左)
施設長 杉本 真人さん(右)

Profile

能力に応じて生き生きと働き、自分の課題と向き合い自分を高める場として障害福祉サービス事業や、水耕栽培(亀山市、伊賀市など)などを運営。法人名には、人と人の縁「えん」、お金との縁「えん」、農園の園「えん」の3つを想いに込めている。

課題+課題=解決できる場合がある

— 小林さん 現在、少子高齢化によって全国的に人手不足が課題です。一方、私たちの支援対象は、若かったり、働けなかったりする就労に悩みを抱えた人です。亀山といえばお茶が有名ですが、茶農家の高齢化が進んでいると聞きます。地域の名産を守るために、就労体験者が、何かの形で「えん」を介して生産活動に携わることができれば、亀山の名産の維持につながるかもしれません。

農業には、繁忙期と閑散期があって、1年を通した人の雇用は困難です。例えば、一番茶の刈入れ時期のお手伝いから始めるのも一つかと思えます。就労体験者が人材不足の産業を支え、場合によってはそこに雇用が生まれる。課題と課題をぶつけることで、解決できることもあります。私たちと茶農家さんに「縁」が生まれ、担い手不足の解消につながればいいなと思います。

何度でもチャレンジできる居場所でありたい

— 小林さん 過去には、一般就労をゴールにしていた時期もありましたが、難しくて戻ってくる人が一定数いました。この子だったら通用するだろうと送り出しても、担当者の異動で引き継がれなかったり、上司が求める像に合わなかったりして歯車がかみ合わなくなってしまう。そうなる、しんどくなって、なじめなくて、心がボロボロになって戻ってきます。

本人が望むなら、障がい者枠での就労がゴールであってもいいと思っています。失敗したり、つまずいたりしても、充電しながらチャレンジできる自宅以外の場であることが、「えん」の役割であり、それをみんなが認め合い、応援できるような亀山であってもらえれば幸いです。



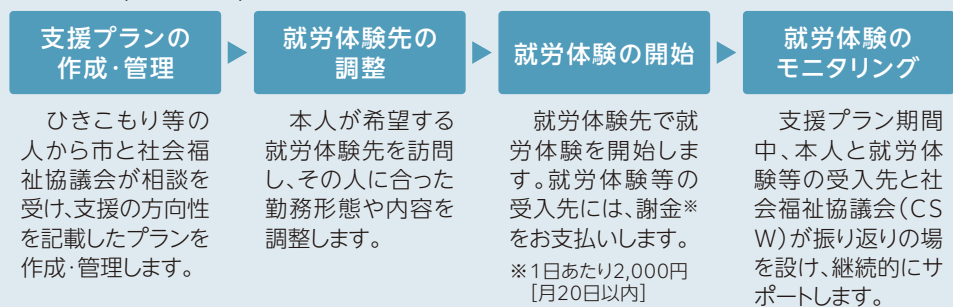
亀山農場の水耕栽培



小松菜の根切り作業

参加支援(就労体験等)事業

◎参加支援(就労体験等)事業の流れ



市内外の8事業所が協力企業に登録 (令和7年5月末時点)

- ① 特定非営利活動法人 Scuderia SUZUKA
バイク部品の組み立て、梱包作業など(鈴鹿市国府町)
- ② 特定非営利活動法人 夢想会 夢想工房
水耕栽培の一連の作業(両尾町)
- ③ NPO法人 えん
水耕栽培の一連の作業(関町新所)
- ④ 有限会社 シャトー
洋菓子製造の下準備など(東町)
- ⑤ クリプトメリア
食器洗浄、清掃(太岡寺町)
- ⑥ 株式会社 キンレイ
冷凍食品の盛り付け(ライン作業)、物品の受け入れ(白木町)
- ⑦ 一般社団法人 トルウエーブ
・駄菓子の陳列、清掃(東町)
・カフェの調理補助、かごバッグの制作など(鈴鹿市南若松町)
- ⑧

新たな場所で、「地域との交流」をはじめる

令和6年3月に亀山市で工場を稼働しました。昔と違って人と人との交流が少なくなっていると感じる中、企業として地域密着型で地域貢献ができないかと考えていたところ、ご縁があって、地域まちづくり協議会の行事で冷凍ラーメンの試食ブースを出し、地域の皆さんとの交流が生まれました。また、夏まつりやバレーボール大会にも参加し、バレーボール大会では、外国人技能実習制度の実習生たちと一緒に参加し、優勝しました。これからも、弊社と地域の交流が増えればと考えています。

そのような中、令和7年1月、社会福祉協議会から就労体験の場づくりへの協力依頼を受けました。私自身が、以前、特別養護老人ホームで相談員として働き、現在、精神保健福祉士等の資格取得に向けた勉強をしているので、社会課題としてひきこもりやニートを認識していました。いずれ親の方が先に亡くなる可能性が高く、そうなると生活が立ち行かなくなってしまう。そうなる前に少しでも働けるようになることをバックアップできるのであればと上席に話をし、協力企業として登録に至りました。社内で協議を重ね、「ちょっとやってみようか」程度のゆるやかな形の体験の場を提供することになりました。

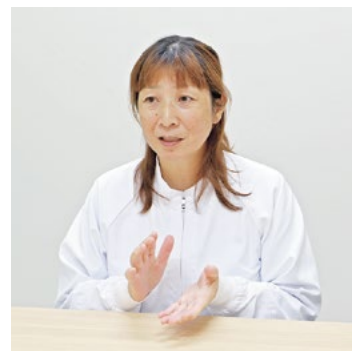
内面が変われば、言動や行動が変わる

就労体験で当社に来てくれた男性。ちょっと下向き加減で、目を合わせて会話をすることがほとんどありませんでした。まず、彼が会社に興味を持ち、長く続けられよう、3つの業務を見学してもらいました。その中で、本人が希望した「材料の受入作業」を週3日(1日2時間)でスタートしました。女性との関わりが少し苦手とのことで、日本語が堪能な外国籍の男性をサポート役にしました。最初の頃は作業を見てばかりでしたが、体験日数を重ねていくと「おはようございます」とあいさつをしてくれるようになりました。定期的な面談でも、「週4日働きたい」などの変化が見られ、最近、自分から率先して意見を言えるようになってきました。笑顔が増え、冗談交じりでちょっとした文句も言えるようになってきて、すごく変わったなと感じています。きっと、“本来の彼らしさ”が出てきたのだと思います。

就労体験を卒業し、4月からアルバイトになり、社員も驚くぐらい仕事もできるように成長しています。本人が望むのであれば、準社員など仕事の幅を拡げて、責任ある業務を任せてみたいと社内で話しています。

「働きたい気持ち」に寄り添って ずっと地域貢献していきたい

近年、人手の確保が難しい時代になっています。こうした状況だからこそ、まずは就労体験からスタートし、自分のペースでステップアップしてほしいと考えています。市の事業を利用すると、市と社会福祉協議会が本人と企業の間を取り持っていただけなので助かります。履歴書等だけでは伝わってこない本人の性格や気持ち、親御さんの想いなどを知ることができます。言いたいことを我慢したり、誤解が生まれたりすることはありません。当社での就労体験を希望してくれる人がいる限り、これからも就労体験事業に協力し、地域貢献し続けたいと考えています。



株式会社キンレイ
生産本部生産部 亀山工場
飯場 里美さん

Profile

亀山工場の立ち上げ当初から人事・労務関係の業務に従事。持ち前の明るさと行動力で日々工場内を奔走しながら活躍中。

株式会社キンレイ 1974年、近畿冷熱株式会社(大阪ガス株式会社100%出資)を創業し、冷凍食品の製造販売等を開始。1991年に株式会社キンレイ(株式会社月桂冠の子会社)を設立。専門店さながらの味を家庭で味わえる「お水がないシリーズ」やコンビニエンスストアで販売されている「鍋焼うどん」などを製造。



材料の受入作業



ひきこもりやニートなどの相談窓口

詳しくはこちら



市と社会福祉協議会では、社会とのつながりに不安がある人やその家族を対象に相談窓口を開設しています。ささいな悩みごとでも構いませんので、安心してご相談ください。

開設日時 平日(午前8時30分~午後5時15分) ※土・日曜日、祝日、年末年始を除く

- 何をすればいいかわからない
- 人間関係がうまくいかず、学校や仕事に行けなくなっている
- 子どもが家族としか交流がなく不安
- 働きたくても働けない状態で悩んでいる
- 子どもへの接し方に悩んでいる
- 家族が高齢化し、子どもの将来が心配 など

どちらの窓口も、総合保健福祉センター「あいあい」(羽若町545)内にあります!

市の相談窓口

地域福祉課福祉総務グループ
☎ 84-3311
✉ fukushi@city.kameyama.mie.jp

亀山市社会福祉協議会の相談窓口

福祉なんでも相談(生活支援係)
コミュニティソーシャルワーカー(地域福祉係)
☎ 82-7985 ✉ aiai@kameyama-shakyo.or.jp

来所、訪問、メールなど相談方法も希望に応じますので、まずはご連絡ください。



亀山市社会福祉協議会 コミュニティソーシャルワーカー